



常務

「大胆な金融緩和と「積極財政」と成長戦略のアーベノミクス政策で、円安・株高などで大企業・富裕層はその恩恵を受けていますが、中小企業には行きわたらず、内需の柱である消費低迷が続いています。

更に税と社会保障制度の一体改革に対する負担増など不安要素も強いことから、国民の貯蓄志向は高まり、地方経済に回復感が戻るには、まだまだ時間を要するものと思われまます。

このような環境の中で、JAと農業を取り巻く環境は、更に厳しさを増し、農協改革法案の成立、また、昨年10月には、TP

P大筋合意など我が国の農業史上かつてない程の組織情勢の変化があった1年となりました。

この環境の中で、昨年11月に組合員やJA職員など関係者参加のもと、第28回JA北海道大会が開催され、

「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農業」をメインテーマとして向こう3カ年におけるJAグループ、サポーター1550万人づくりに向けた対応方針が策定されました。

当JAにおきましてもそのテーマに沿って取り組んで参りたいと思っております。

当JAの農業に関しては、昨年は、春先の低温から始まりましたが、1年を通じて温暖な気候と災害の無かった1年で、各作目ともに出来秋の良かった年でした。

作目別に見ますと青果につきましては、全体で10億5380万円となり、計画対比で116.3%、前年対比で1億2700万円の増加となりました。

その中でも施設野菜の主力ミニトマトは、数量的には若干の伸びでしたが、価格上昇で昨年を1億2350万円上回り、9億3000万円の取扱となりました。大台の10億も夢ではなくなっております。

特に新規就農者5組で6000万円、新ひだか町の研修ハウス団地で4000万円の出荷が取扱に大きく寄与しています。

また、稲作につきましては、全道作況指数104に対して、日高は103でしたが、良品質米としての製

品率が高く、全量一等米で価格の上昇もあり、計画対比131.8%の2270万円増加で、約9400万円の取扱となりました。

酪農につきましては、乳価の上昇により、前年より1200万円増加の3億5400万円の取扱となりました。

黒毛和牛につきましては、ここ数年続いております素牛の不足感から昨年も1年を通して高価で推移し、売却頭数785頭で、5億3000万円となりました。計画対比で113.0%、前年対比で3500万円の増加となりました。

平均価格においても去勢で73万円、めすで62万6000円と高値が続いており、主要な作目となっております。

平成28年1月末でのこれら農畜産物の取扱合計額は、前年対比で110.2%、金額ベースで2億1630万円増加の23億3680万円となり、取扱高を更新致しました。

当JAの基幹産業である軽種馬については、景気の上昇も伴って、購買者の購買意欲も高まり、1年間通しての北海道市場での静内産馬の販売は、366頭（昨年318頭）で28億520万円（税抜）となり、売却率も前年の65%から昨年は67%と上昇し、前年対比で5億27

4月15日、新ひだか町公民館において「第68回 しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。

冒頭挨拶において、西村和夫代表理事組合長より「昨年を振り返りますと国内経済は、第2次安倍政権の